

高浜町元助役から関電幹部に金品

県内疑問の声次々

関西電力の役員が、原発立地自治体の元幹部から私的に金品を受け取っていたことが発覚した。県内では次々に疑問の声が上がり、反原発団体は関電への批判を強めた。



関西電力の担当者(右)に抗議文を手渡す市民団体のメンバー―美浜町郷市

反原発団体が抗議

「オール福井反原発連絡会」のメンバーは27日午後、美浜町の関電原子力事業本部を訪れ、資金の還流の実態を徹底的に調査し、結果を明らかにすることなどを求める抗議文を手渡した。「本当のことをきちん」と説明すべきだ」「あいまいにしないでほしい」。メンバーたちは次々に思いを口にしました。同本部を訪れた一人、小

浜市の明通寺住職の中島哲演さん(77)は「やはりそうだったのか、という思いを禁じ得ない。『国策民営』で進められてきた原発建設では、お金が有効な手段として使われてきた。(運動を通じて)原発を巡る黒いお金の問題をずっと指摘してきた」と語った。毎週金曜夜に県庁前で原発の再稼働反対を訴える市民たちも、強く批判した。

デモ行進には13人が参加。「関電は裏金の真実を明らかにせよ」「関電は裏金を取って原発を動かすな」「原発のない福井をつくらう」などとアピールした。約7年前の運動スタート時から参加している坂井市の石森修一郎さん(72)は、「原発の利権が改めて明らかになった。利権構造で成り立っている原発は一刻も早く止めて廃炉にすべきだ」と訴えた。関電幹部に金品を渡していた高浜町の元助役、故森山栄治氏は高浜町の有力者。地元では多くの人がその存在を特別視していた。森山氏をよく知る高浜町の70代女性は「仕事で付き合いのある人たちが、お歳暮を持って森山宅に列を作るのが恒例になっていた。地元ではその様子を『森山詣(もつで)』と言っていた」と語る。町内の別の女性は「前からよくないうわさは聞いていたので、いまさらという感じ」。

森山氏と深いつながりがあったとみられる高浜町の業者は、「担当者がいない」などとして取材に応じていない。(大西明梨、南有紀、八百板一平)